

札幌大谷大学同窓会

# OTANI しんしんかい 真心会

同窓会だより

第41号 平成29年10月10日発行

〒065-0016 札幌市東区北16条東9丁目1番1号

札幌大谷学園百周年記念館内

電話・FAX 011-743-6466

<http://www.sapporo-otani.ac.jp/dousoukai/>

## ふれあい広場 in 函館

6月11日(日) 五稜郭タワー/アトリウム



保育科「作ってあそぼう」



美術科「絵手紙講座」



音楽科「音楽療法」

## 第2回 谷の会展

6月13日(火)～16日(金)  
大丸藤井セントラルスカイホール



## 第41回 谷の音会コンサート

4月29日(土・祝)  
札幌コンサートホールKitara





札幌大谷大学 学長

高橋肇

今年の四月より学長に就任いたしました高橋肇と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。長年住みなれた名古屋を離れて北海道にやってきました。亡父は旭川の生まれです。私は一九六三年に東京都町田市で生まれ、幼少時代を神奈川県秦野市で過ごしたのち、八歳から高校卒業までを母の実家がある栃木県栃木市で過ごしました。

高校卒業後は、名古屋大学法学部に進み政治学を専攻し、そのまま大学院に進み助手を二年勤めました。

一九九六年には同じ大谷派系列の同朋学園が設置する名古屋音楽大学の教養科目担当の専任教員として採用されました。二〇一〇年三月から二〇一六年三月までの六年間は名古屋音楽大学の学長として過ごしました。名古屋の学長になった七年前には、四十六歳准教授で音楽が専門でない者が学長になったということと色々話題にもなりました。このたび縁があつて札幌大谷の学長に迎えられることになり、二十一年間勤めた名古屋音楽大学を退職いたしました。祖先は松前藩だったと亡き父より聞いております。今年の二月には亡父の七回忌を済ませたところです。どうやら祖先と亡父と呼ばれて北海道にやってきました。そんな気がしてなりません。

札幌大谷学園の発展のために、全力を尽くして誠心誠意職務に努めてまいりたいと存じます。同窓生の皆様方からは、何卒温かいご指導とご鞭撻とご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

プロフィール  
・名古屋音楽大学教授（政治学、政治哲学）  
・前学長  
・一九六三年東京都生まれ  
・名古屋大学法学部政治学科卒業、名古屋  
大学大学院法学研究科政治学専攻博士後  
期課程単位取得退学  
・名古屋大学法学部基礎政治学講座助手  
・名古屋音楽大学専任講師、同助教授、同

准教授を経て、同教授。  
・二〇〇四年六月～二〇〇六年三月同朋学  
園情報センター長、二〇一〇年三月～  
二〇一六年三月名古屋音楽大学学長  
・二〇一四年四月～二〇一五年三月同朋学  
園厚生部長、二〇一五年四月～二〇一六年三  
月同朋学園キャリア支援センター長  
・二〇一六年四月～同朋学園入試・広報セ  
ンター長



札幌大谷大学 前学長

巖城孝憲

本学同窓会真心会の皆様には、六年間にわたる在職中、大変お世話になりました。有難うございました。短期大学部五十周年、同窓会五十周年等の慶事の際には、同窓会の皆様の力に圧倒される思いでありました。道内各支部の皆様にも、周年行事等に参加させていただき、ご厚誼を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

この間に大勢の方々に出会わせていただきましたが、「大学は、学生のためにある」ということを第一義として堅持してきたつもりですので、願いを同じくする方々と出会えたことは、非常に心強く思ったことであります。意見が対立する時には、より高い次元で、双方を否定することなく双方を生かす道がないかを模索して参りました。大学ガバナンスの肝要は、「決断すべき事を、決断すべき時に、決断すべき人が決断することである」と教えられ、これは大学ガバナンスのみならず、自己と社会のあらゆることに通ずる普遍的な指針であると思われました。この六年間は、学生たちの学びの場に身を置かせていただいたいて、私自身もまた、学びを賜りましたことに感謝の念を深くする者であります。

真心会は、現在の大学自治会組織が男子学生主体になつてきたのと同様に、男子卒業生が執行部を担う時節が、やがて遠からず到来し、従前は違った形の組織運営の展開が予想されます。同窓会真心会の活動が、大学・同短大部を支援する大きな輪となり、今後の一層の発展があることを深く願っております。



札幌大谷大学同窓会会長

小原 明美  
(音楽科14期)

木々も色づき、すっかり秋一色となりました。この夏の猛烈な暑さが心なしか懐かしく感じますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年の同窓会は新年度から次々とイベントが催され、あわただしいスタートとなりました。

四月に開催された「第四十一回谷の音会コンサート」（キララホール）では、道内各地から、関東からもご出演いただき、総勢二十名によるピアノ、声楽、アンサンブルの聴きごたえのある演奏に会場全体が大きな感動に包まれました。

五月の総会は道内から多くの方々にお集まりいただき、活発な議論が交わされ、大変有意義な時間を持つ事ができました。このことを心より感謝申し上げます。

六月の「ふれあい広場 in 函館」では、現在本部預かりとなつています道南支部の活動として【保】「作つてあそぼう」、【音】「音楽療法」、【美】「絵手紙講座」と各科のイベントが同時開催され、お子さん連れで駆けつけてくれた卒業生はじめ、地元の皆様のご協力のもと、たくさんの方々にご参加いただき、いずれ道南支部が新たに活動を再開する日が来ることをあらためて願いました。

「ふれあい広場」が終わりすぐ「第二回谷の会展」開催。油彩、造形など大丸藤井セントラルスカイホールに並ぶ力作一つ一つから湧き出る作者の思いとエネルギーを感じながら、一週間の作品展が幕を閉じました。同窓会も現在の体制になり六年目になります。

これまで様々な問題を解決し、それらが軌道に乗る一方で、時代の流れ、取り巻く環境の変化により、また新たな課題が生まれます。

これからも皆様のご協力を得ながら、慎重、かつ敏速に進めて参りたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



芸術学部  
音楽学科長

千葉 潤

平素より大変お世話になっております。今年の音楽学科は、音楽教職課程の勝谷友一先生を教授としてお迎えしたほか、吹奏楽界の重鎮である作曲家の内藤淳一先生を始め、各分野で大活躍されている方々を非常勤講師にお迎えし、より一層の教員スタッフの充実を図りました。また、平成二十八年度をもって定年退職されました音楽療法の開谷先生には、短期大学時代に講師としてご着任いただき、大学開学後はコース主任として本学や北海道の音楽療法教育研究の基礎を築いていただきました。ここに改めて深く感謝申し上げます。

本年七月に開催いたしました吹奏楽の定期演奏会では、第十回記念として作曲家の宮川彬良先生を客演指揮者としてお招きしました。絶妙なトークで会場を盛り上げながら、「宇宙戦艦ヤマト」や「シンフォニック・マンボ」等々、肩の凝らない名曲を指揮していただき、ステージと会場が一体となった素晴らしい演奏会にすることができました。同窓生の方々にも多数ご来場いただきましたこと、改めてまして御礼申し上げます。

大学は依然として厳しい学生募集状況に置かれております。同窓生の方々にご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



芸術学部  
美術学科長

鈴木 誠子

同窓会の皆様には日頃よりたいへんお世話になりありがとうございます。

美術学科は四年制大学として六年目を迎えました。五十年近く続いた短期大学時代は油彩とデザインのコース（後ほど総合造形コースを加え三コース）を骨子とし優れた人材を育成してまいりました。四年制大学となった当初は造形表現領域内に絵画コース（油彩、日本画、版画分野）立体コース（立体分野）、メディア表現領域内にメディアアートコース（写真・映像分野）メディアデザインコース（グラフィックデザイン、情報デザイン分野）としてスタートしたのですが、完成年度を迎えた平成二十八年度からは、一、二年生でより広い専門知識に触れ三、四年生では専攻の分野に集中して実力をつけることができるようにコース制を廃止し、二領域として三年次からの専攻を造形表現領域（油彩、日本画、版画、立体）、メディア表現領域（写真・映像メディアアート、グラフィックデザイン、情報デザイン）と変更しました。また、今年度からは「大学共通一般教育科目」で音楽学科また、地域社会学科と共用する科目も設けられ、より広い知識を学ぶことができるようになりました。時代はめまぐるしく変化して行きます。多様化して行く社会に順応しました、寄与貢献できる人材として卒業生を送り出す気持ちで日々、学生と接してまいります。今後とも卒業生をよろしくお願い致します。



社会学部  
地域社会学科長

久野 寛之

五年前の平成二十四年度に船出した社会学部地域社会学科は無事航行を続けております。真心会の皆様方をはじめ、多くの方々のご支援助やご尽力を賜わり、学部開設以来右肩上がりです。学生数が増え、二十九年度の入学人数は五十九名、定員七十名にあたり二歩というところまで漕ぎ着きました。そこには、今や真心会の構成員でもあるI期生、II期生の皆様が就職率一〇〇%、正規雇用率一〇〇%という就職実績を二年連続して達成してくださったことが間違いなく大きく影響しています。心から御礼を申し上げます。この素晴らしい実績によって、「ここで普段から一生懸命学んでいけば、業種、職種を問わず、嘱望される人材に育っていく。外付けの付焼刃的な就職戦略など一切不要」という地域社会学科の信念の正しさが証明されました。そして、入学当初は必修科目をはじめとする基礎学力養成科目の多さや施設の狭隘さが気になる不平も出ますが、最後は感謝で終わり、就職後も多くの卒業生がキャンパスを訪れ、近況を報告し、ここでの学びを感謝しに來てくれる。そんな学科になってまいりました。

同窓会の皆様には、日頃より多くのご支援をいただき、心より感謝申し上げます。今年度保育科は一〇二名の新入生を迎えてスタートいたしました。また、今春の卒業生は、幼稚園三十二名、保育所三十名、認定こども園二十四名、保育所以外の社会福祉施設三名、教育関連の協会等を含む一般職に五名が就職し、八名が本学専攻科等に進学しております。例年通り専門的な職業を選択した方の割合は約九七%と非常に高く、本学での学びを社会の中で活かしているものと期待しております。

さて、最近、報道等の影響から、一般的な保育職に関するイメージの悪化に伴う保育者志望者の減少について、現場の先生からもご心配の声を聞くようになりました。しかし、保育者の待遇につきましても、公的な給与の改善、研修制度の改革等が進んでいるのと同時に、各園におかれましても、職場環境の改善に積極的に取り組んでおられます。そして何より、幼児教育・保育の重要性が高まっている現在、質の高い実践を行う意義や子どもの成長に関わる喜び・やりがいといった、保育の仕事そのものの魅力について社会に向けて発信していくことが大切と考え、本学としても取り組んでいる所でございます。

保育科では、昨年、学生の主体的な学習を支える場として、保育実習準備室を新たに設置いたしました。このような教育環境・内容の改善に継続的に努めて参ります。今後とも変わらぬ温かいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



短期大学部  
保育科学科長

星 信子

## 釧路支部



「三十年の軌跡」

支部長 泉 洋子

音楽科12期

今年三十周年の節目を迎え、この文章が、お目に触れる頃に釧路支部は記念行事を終え新たな軌跡への一歩を踏み出していると思われまふ。

記念コンサートは九月十六日(土)に行なわれ六名のソロ演奏、合唱、アンサンブルと多彩なプログラムを組み、現在在学中の会員を含め、様々な世代の会員が心を合わせて取り組んで参りました。良い結果が得られることを祈るばかりです。

また今年度は四月十六日に支部総会を行い親睦を深め、できるだけ声をかけ合い同窓生としてのつながりを広げようと努力することを話し合いました。人と人とのコミュニケーションが難かしくなってしまう近年ですが、わずかな心配りで環境が変わることもありまふ。労を惜しまず心を傾けて参りたいと思っております。三十年の軌跡をかみしめて。

## 十勝支部



「世代交代のむずかしさ」

支部長 高橋 亜香

音楽科20期

今年の十勝は七月に記録的な猛暑に見舞われまふ。昨年の台風からの復興が続く中、今年もまた異常気象に心配な毎日です。

昨年九月に十勝支部創立十周年記念コンサートを終えまふ。大学、同窓会本部やたくさんの支部会員の協力を得て成し遂げられたと感謝しております。そして今年からまた新しいスタートをすべく六月四日に支部総会を行い十二名の参加者で近況報告や今後の支部の在り方について意見を交換いたしました。

各支部とも同じ悩みだと思いまふが、会員相互組織としての同窓会支部の運営へのなり手を探すことはなかなか難しいものがありまふ。でもこのようなつながりを持つことが自分にとつての成長につながる場、と私自身は実感していまふ。一歩踏み出す勇気をぜひ皆さんにも今一度お考えいただけたらこの場をお借りしてお願い申し上げます。

## オホーツク支部



「ふと、思ったこと」

支部長 横畠 桂子

音楽科19期

七月に入り各地で夏祭りの公告が目につくようになりまふ。花火大会などあちこちで催ものが行われ、子供達が小さかった頃は何度となく訪れましたが、今は家族それぞれ忙しく遠ざかつておいまふ。

そんな事からふと自分の学生時代(三十数年前)を思い出しまふ。今の学生達はどのような気持ちで過しているのだろうか……。

時の流れを感じつつ、私の人生の中には、すばらしい恩師、友人との出会い、そして今は同窓会を通してたくさんの貴重な出会いをいただいております。

オホーツク支部では、なかなか顔を合わせる機会がない方もいまふが、「出来る時に出来る事を」をモットーに、入れかわりながら幹事会等に顔を出していただいております。

昨年は体調をくずしまふが、今年からまた少しずつ元気をとり戻して行けたらと思いまふ。今後ともよろしくお願ひいたします。



# 輝いて今……

## 各科のなかまたち

### 「すべてはじ縁」

武澤 光咲 保育科52期



昨日のことのように思い出す大  
学生生活。最後の保育実習で、私は『大  
谷オアシス保育園』にご縁を頂き、  
三年間勤務しました。『実習生の一  
人』ではなく、『二人の先生』として自分らしい保育を  
させてもらえたこと。当時の心境を思い出すと、いつ  
もそこには私を育ててくれた子どもたちや先生方の顔  
が浮かんできます。

気付けば保育士四年目。そんなある日、職員欠員の  
知らせを母から受けました。実家は、お寺が経営する  
小さな保育園。自分自身の母園でもあり、保育士を目  
指すきっかけを与えてくれた場所です。恵まれた環境  
に居た私は、とても悩みました。私にとつては、どち  
らにも特別な思いがありました。だからこそ、どちら  
かを選択しなければならぬのはとても辛いことでし  
た。しかし、気持ちが何度右往左往しても、ぶれなかつ  
た思いがあったのです。それは、母への親孝行でした。  
実は母も、大谷保育園の出身でした。母の存在がなけ  
れば、今の私も存在しません。いつも支えてくれた母を、  
今度は自分が支えたい。これが私の出した答えでした。  
いつか自分の決断を後悔するのだろうかという不安  
も感じさせないほどに、今日の前にいる子どもたちが  
可愛くて仕方ありません。もしも一つでも欠けていた  
らと考えると、すべてが良いご縁との巡り合いだと感

じます。今までたくさんの人の温かさに触れ、出会い  
の大切さを知る事が出来たように、これからの人生も  
大事に過ごしていきたいです。

### 「札幌再出発」

前田奈央子 音楽科36期



早いもので専攻科を修了して  
十五年が過ぎました。そのうち十  
年間は東京を拠点に音楽活動を行  
なっていました。

東京では、東京二期会オペラ研修所に入所し、素晴  
らしい仲間達、先生方と出会い、三年間基礎からオペ  
ラの勉強をさせて頂きました。

その中で研修生として本公演に合唱で参加する機会  
を与えて頂き、活躍しているプロの歌い手の方々と同  
じ舞台に立ち、間近で歌唱を聴き、演技を観ることが  
出来た事は本当に幸せな時間でした。

研修所終了後は、オーディションを受け続け、多く  
のオペラやコンサートに出演する機会を頂いたり、ハ  
イメスコンクールを受けウイーンで研修し、多くのこ  
とを学ばせて頂きました。

二〇一四年夏からは札幌を拠点に演奏活動を行なっ  
ており、二〇一六年には新進演奏家プロジェクトオー  
ケストラシリーズに合格し高関健先生の指揮で札幌交  
響楽団と共演致しました。

現在は平成二十九年度北海道二期会オペラ公演『不  
思議の国のアリス』の稽古に励んでいます。出づっぱ  
りのアリス役、大変ではありますが、歌い演じる事は  
私にとって本当に喜びです。

これからも理想の声を求め研鑽を積み、大好きな札  
幌の地で音楽活動を続けてゆきたいと思っています。

### 「繋がる絵画」

佐藤 綾香 美術科44期



当時、多摩美術大学大学院の受  
験を翌年にひかえ、札幌大谷大学  
を卒業してからは研究生として一  
年間在籍しました。一度大学院の

受験に失敗していたので、じりじりとした焦りと共  
に制作した思い出があります。嬉しいことも沢山あ  
りました。集中して制作に没頭できる場所があるこ  
と、先生方にいつでも会えてアドバイスを頂くこと  
ができたこと……。描けないことは苦しい、しかし  
諦めたらそこで終わり。忍耐力と柔軟な気持ちで制  
作に対応していく姿勢。このような心の基盤は大谷  
での五年間で滲みついたように思います。

進学してからは、実を言うとなかなか思うように  
描けない二年間でしたが私にとつて、かけがえのな  
い重要な期間だったと思います。

描けないならば描く以外のアプローチをしよう  
としました。文章にしたり、塑像をしたり、運動  
をしたり、会話をしたり、絵の栄養になる事をひた  
すら探したように思います。やっていることに無駄  
なことは一切ないと信じて現在に至ります。そうし  
ているうちに絵の為にやってきたことが色々な場面  
に生かされ、新しい世界と出会うきっかけにもなる  
という素晴らしい体験もしました。今、絵で何がで  
きるのだろうと思います。絵には力がある。最大限  
にその力を広げていく方法を考えています。



# 「地域交流が活きる場所」

山本 将武 地域社会学科2期



です。

現在私は、株式会社ニッセンレンエスコート営業部カード事業部に所属し、カード会員獲得のために札幌近郊の様々な場所で営業活動に走り回る日々を送っています。

大学時代は、学生有志団体「まち研！」の代表を務め、札幌市東区を中心にいろいろなイベントやお祭りを企画運営するなど、仲間と共に忙しく過ごしていました。社会に出てから、地域の人と繋がる力がここで培われたことに気づかされました。営業先で、地域の方から「山本くん！」と声をかけていただく場面も多々あります。

地域社会学科では、グループで議論したり、発表したりを繰り返していましたので、社会に出てすぐ人前で話すような機会があっても困ることなくスムーズに対応することができました。少人数だからこそ、先生たちとも日常的に交流し、多くのことを体験する機会をいただけたことに感謝しています。

これからまだまだ勉強の日々が続きますが、大学で学んだことを無駄にすることなく、北海道、地域に貢献できるよう努力を続けていきたいと思えます。営業で走り回る山本を見かけましたら、お声かけいただければ嬉しいです。

札幌大谷大学社会学部の二期生として、社会に出て、早くも半年が過ぎました。入社後、厳しい研修を経て、今ようやく独り立ちしたところ

## 図書館について

札幌大谷大学図書館は、記念棟1階の本館と、南棟1階の第2図書館の2箇所に分かれています。本館には社会学部・保育・美術・仏教・その他一般図書を、第2図書館には音楽関係の資料を収蔵しています。どちらも自由に利用できますので、用途に応じてご利用下さい



### 開館時間

月～金曜日	9:00～19:00
土曜日	9:00～16:30
長期休暇中	9:00～16:00

### 閉館日

※日曜日、国民の休日、年末年始及び大学の定めた休日。その他、学校行事等の都合で臨時閉館または開館することがあります。

## 平成28年度収支決算書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

収入 11,062,482円  
支出 9,580,044円  
差引残高 1,482,438円 (次年度繰越)

札幌大谷大学同窓会真心会

### 収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	摘要
入会金	2,680,000	2,680,000	0	短大1年入学手続者 113名 @10,000 大学1年入学手続者 155名 @10,000
会費	3,400,000	3,546,000	△146,000	短大在学生 105名 2,100,000 大学在学生 5名 60,000 卒業生 487名 1,386,000
雑収入	200,000	69,033	130,967	御祝儀 50,000円、懇親会 18,000円 預貯金利息 33円 同窓会費 1,000円(現金収入分)
前年度繰越金	4,767,449	4,767,449	0	
合計	11,047,449	11,062,482	△15,033	

### 支出の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	摘要
同窓会便り発行費	400,000	292,680	107,320	第40号印刷費 7,800部
同窓会便り発送費	800,000	643,001	156,999	発送費@87.4 7,357部
消耗品費	100,000	22,088	77,912	事務用品等
活動費	700,000	420,913	279,087	役員活動費、交通費
通信・連絡費	250,000	156,971	93,029	総会案内ハガキ、資料発送費、電話代
印刷費	300,000	218,222	81,778	総会案内印刷、封筒、コピー代
会議費	600,000	256,997	343,003	役員会等費用
慶弔費	300,000	190,000	110,000	入学・卒業式・三科・支部祝花・香典・供花
補助費	600,000	410,000	190,000	各支部@60,000×3 各支部会員数別補助費
データ管理費	100,000	54,000	46,000	名簿データベースメンテナンス
卒業記念品	400,000	358,240	41,760	28年度卒業生名簿、卒業記念品
支部関連費	500,000	295,452	204,548	支部会議・交通・宿泊費等
行事費	500,000	869,607	△369,607	谷の音会コンサート
備品費	200,000	145,407	54,593	複合機・パソコン・ウイルスバスター
雑費	297,449	246,466	50,983	理事長・学長・事務方挨拶・振込手数料等
積立金	5,000,000	5,000,000	0	
合計	11,047,449	9,580,044	1,467,405	

## 活動報告

《平成29年度事業ならびに活動予定》

- 平成29年  
4月4日 大学・短期大学部入学式出席  
4月29日 第41回谷の音会コンサート  
(札幌コンサートホール)  
5月20日 同窓会本部・支部連携会議及び総会  
6月11日 ふれあい広場3函館  
6月13日～16日 第2回谷の会展  
(大丸藤井セントラルスカイホール)  
9月16日 釧路支部設立30周年記念コンサート  
(釧路市民文化会館)  
10月上旬 同窓会だより第41号発行  
11月11日 教育講演会(旭川市)  
平成30年 3月10日 大学学位記・修了授与式出席

## 同窓生数

同窓生数計	14,030名
保育科	5,113名 (専攻生含む)
芸術学部音楽学科	5,154名 (旧音楽科、音楽学部、研究生含む)
芸術学部美術学科	3,678名 (旧美術科、専攻生含む)
社会学部地域社会学科	85名

札幌大谷フラウエンコールです。

## 一緒に合唱を楽しみませんか

“札幌大谷フラウエンコール”は1990年に故穴戸悟郎先生の下、「学生時代のように、もう一度合唱の素晴らしさを味わいたい」と、輪声会OGで結成されました。

以来、30年近くの間、レコーディング、全日本合唱コンクール金賞受賞(2回)、PMF出演等、たくさんの貴重な体験をさせて頂きました。現在は、指揮、則竹正人先生、ピアノ、浅井智子先生の下、輪声会出身以外の人も含め30余名で活動しています。

近年は、定期的な演奏会の開催、市民合唱祭・合唱コンクール等への参加活動をしています。

声を出すことは身体にも良く、ハーモニーを合わせる楽しさを一人でも多くの同窓の皆様味わって頂きたく、お誘い申し上げます。**是非ご一緒に！！**

練習：毎週金曜日 18：45～20：45

練習会場：札幌大谷学園百周年記念館同窓会ホール

会費：1ヶ月3,000円

※学部専攻、合唱経験問わず(但し女性のみ)

問い合わせ先

(代表) 半澤 幸恵(音11期)

(TEL & FAX 011-664-3646)

## 《会費の納入方法》 平成26年度より改正

### 【在学生(準会員)】

\*平成26年4月1日入学生から

- ・入会金10,000円：入学時に納入
- ・終身会費20,000円：大学…4年次後期に納入  
：短大…2年次後期に納入

\*平成24年4月～平成25年4月までの入学生  
(現3、4年生)

- ・入会金10,000円：入学時に納入
- ・卒業時に以下①②のどちらかを選択
  - ①終身会費20,000円：卒業時(正会員となった時)に納入
  - ②卒業後⑥年目より年会費1,000円を毎年納入
- ※年会費を選択した場合、卒業から5年間の会費納入は免除

### 【卒業生(正会員)】

\*正会員になってから6年未満の会員  
(平成20年度～平成25年度の卒業生)

- 卒業してから5年分の会費免除。
- 6年目から以下①②のどちらかを選択
  - ①終身会費20,000円を納入
  - ②年会費1,000円を毎年納入

\*正会員になってから6年以上の会員  
(平成19年度以前の卒業生)

- 平成26年度より、以下①②のどちらかを選択
  - ①終身会費20,000円を納入
  - ②年会費1,000円を毎年納入

会費納入についてのお問い合わせは同窓会室FAXかgmailとします。

FAX/011-743-6466 gmail/ootanisinsinkai@gmail.com

振込用紙は宛先も兼ねておりますので、終身会費を納入頂いた方にも同封されます。お手数ですが破棄願います。

